

教員の意欲を喚起し、教育効果を高める学校経営

重点目標達成に向けた校長の経営行動を通して

岡垣町立海老津小学校

校長 石田 拓司

こんな手立てによって…

校長が、学校の重点目標の目指す姿を具体化し、取組のPDCAに沿って学年組織にアプローチしながら教員の主体性を発揮させていくようにする。さらに、成果を目に見える形で提示していくことで、教員の意欲を高めていく。

こんな成果があった！

取組のPDCAに沿って教員が主体的にアイデアを出し、職務遂行意欲が高まったと同時に、学年組織を中心とした共通実践が行われていった。その結果、標準学力検査、全国学力学習状況調査に向上が見られたばかりでなく、児童の問題行動も減少してきた。

1 考えた

教員の主体性を高める学校経営として、兵庫教育大学大学院教授の浅野良一氏の「次代を拓くスクールリーダー」の中から、①学校の状況を踏まえた学校経営ビジョンを明らかにし、重点事項を共有できるようにしていくこと、②メンバーの自発的行動による学校の組織活性化と組織文化の形成を促すことの2点において、校長の経営行動を視点に具体化したいと考えた。そこで、平成30年度の学校の教育課題、経営課題から、校長の経営行動として、学年組織を中心に重点目標達成に向けた取組を作っていたり、主題研修の取組を重点目標と連動させたりする取組を行っていたと考えた。

2 やって見た

学校の教育課題に対応し、焦点化した重点目標を設定した。また教職員に「なぜこの重点目標なのか」「具体的にどのような子どもの姿を目指すのか」といったことを意見交流していきながら共有化を図った。

「教員の主体性を高める取組」においては、重点目標達成に向けた取組におけるPDCAを各学年ごとに行わせたり、その評価方法、評価内容についても決めさせたりしていくことで、評価を意識した取組を行わせるようにした。

学期途中に取組を見直す評価を入れることにより、意識を高め、継続していくとともに、主題研修と関連付けることで、取組の相乗効果を図るようにした。

3 成果があった！

教員自ら取組や評価を作成し、実施していくことで、重点目標達成に向けた取組に向けた意識や意欲の向上につながった。

また、学年組織を中心にPDCAを機能させていくことで、学年の打ち合わせを含めた情報交流が増え、学年の共通実践が行われるようになった。

その結果、全校児童を対象とした標準学力検査や全国学力学習状況調査の結果が向上したとともに、児童の問題行動も減少し、学校全体が落ち着いてきた。

教員の意欲を喚起し、教育効果を高める学校経営

重点目標達成に向けた校長の経営行動を通して

1	主題設定の理由	3
	(1) 社会の要請から	3
	(2) 学校の実態から	3
	(3) 目標達成に向けて意欲的に取り組む教員集団にしていくために	4
2	主題の意味	5
	(1) 主題について	5
	(2) 副主題について	5
3	研究の目標	5
4	研究の仮説	5
5	研究の構想	6
	(1) 研究の根拠について	6
	(2) 計画	6
6	研究の実際	7
	(1) 学校の重点目標の設定と共有化	7
	(2) 教員の主体性を高める取組	8
	(3) 確かな評価による取組の推進	13
	(4) 達成感を得る成果の共有	18
7	全体考察	19
8	成果と課題	20
	(1) 成果	20
	(2) 課題	21
<参考文献>		21

教員の意欲を喚起し、教育効果を高める学校経営

重点目標達成に向けた校長の経営行動を通して

岡垣町立海老津小学校
校長 石田 拓司

1 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

今、小学校では、新学習指導要領完全実施に向けての準備、子ども達の学力向上への要求、保護者からの要求の多様化、子どもを取り巻く家庭環境の多様化等、教員が取り組まなければならない問題は数多くかつ、複雑化しており、教員の負担感が増している状況にある。また、そのような問題への対応として「教員の働き改革」が取り上げられ、教員の業務に対する見直しも始まっている。

しかしながら、教育に関する業務はどれも大切なもので、簡単に削減が難しく、教員の負担感をすぐに払拭できるような状況にはなっていない。

このような状況にある中、校長の学校経営の在り方が大きく問われている。校長の経営戦略次第で、教員の「やらされ感」が増大することもあれば、逆に「やりがい」としてとらえられ、教育効果を上げることにもつながることが言われており、今、学校経営における校長の果たす役割がたいへん重要になってきている。

(2) 学校の実態から

① 児童の実態

本校児童数 653 名、学級数 24 学級（平成 30 年 5 月 1 日現在）の大規模校である。校区は町の中心部に位置し、新興住宅地も開発され、児童数も増加傾向にある。明るく素直な児童がほとんどであるが、厳しい家庭環境の児童もおり、特別な支援を必要とする児童も少なくない。

学力面において、平成 30 年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語科、算数科ともに全国平均を下回っており、基礎基本の習得及び活用の両面にわたって課題が見られ、平均より下の層の底上げが急務である。

生活面においては、多くの児童が生活のルールを守り、落ち着いた生活を送ることができているが、気持ちの浮き沈みが激しい児童、落ち着いて学習に取り組めない児童等、特別な支援を必要とする児童への対応が課題である。特に、自分の思いや気持ちをきちんと表現することができず、言い争いになることや、自分の主張をするばかりで、友達や先生の話の聞けない、受け入れられないといった児童も多く見られる。

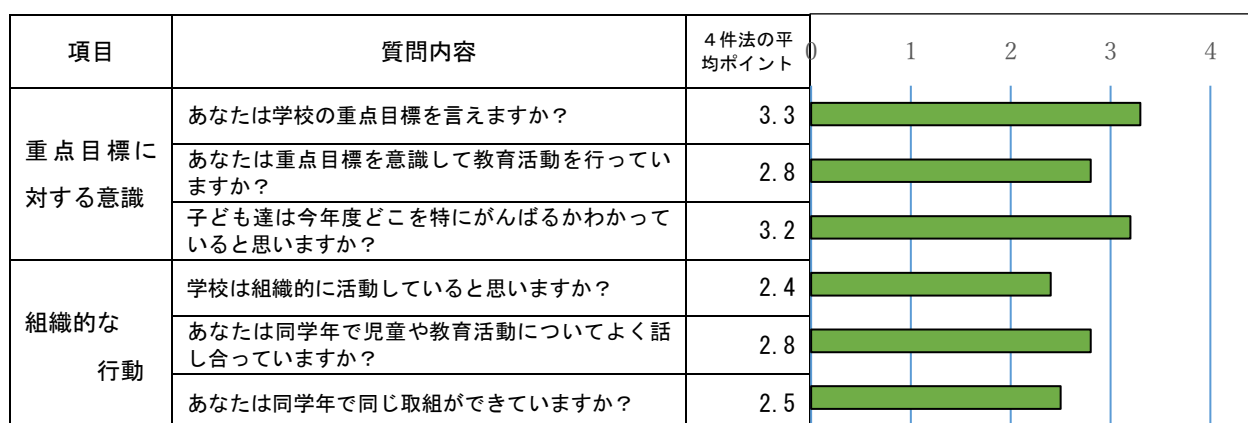
② 教職員の実態

教職員数 40 名（うち学級担任 24 名）50 歳以上が半分在籍するとともに、若年層も増加

傾向にある職員構成となっている。それぞれの教員の授業力、生徒指導力にも、差が見られる。

経営課題の一つとして学校組織の運営に課題がある。特に学年集団のまとまりに差があり、年度当初のアンケートの「あなたは同学年で同じ取組ができていますか？」のポイントが2.5と低い状況も見られる等、学年組織のまとまりに学年の差が見られることが分かった。【資料1】

また、生徒指導上の問題行動に振り回され、対応が後手後手に回り、徒労感を感じている教員や、学校行事、児童会活動等の意義、目的も明確にならないまま、前年度と同じ取組を繰り返すといった「やらされ感」を強く感じ、意欲を低下させている教員も多く見られる。



【資料1】 平成30年度海老津小学校教員の意識調査 平成30年4月実施

（3）目標達成に向けて意欲的に取り組む教員集団にしていくために

平成30年度より本校の校長職を拝命し、前任の校長から引き継ぎをしていく中で、児童の課題、保護者地域の課題、教職員の課題が数多くあり、これまでの管理職が課題の解消を図ろうと努力されてきたこと、なかなか課題が解消されていかなかったことから、この学校の校長としての職責の重さを強く感じた1年目であった。

岡垣町の教育長を始め、多くの先輩から指導を仰ぎ、周りから情報を得ていながら、教職員が一つの方向に向かって意欲的に共通実践できるような学校を目指して、本主題・副主題を設定し、本校の一番の課題である児童の学力向上のために、学年組織を活性化させる経営行動を考え実践していった。

この研究のポイントは、以下の点である。

- 本年度力を入れて取り組む重点目標を、教職員、児童・保護者・地域の人にイメージできるように具体的なものにし、経営ビジョンとしていつも意識できるようにアピールすること。
- 教職員それぞれの持ち味が発揮できるように、教職員が主体的に取組を設定したり、実践できる場を設定したりしていくこと。
- 取組の成果や課題を明確にし、教職員が達成感を得られるように、PDCAサイクルが機能できるようにしていくこと。

2 主題の意味

(1) 主題について

「教員の意欲を喚起する」とは、教員の日々の具体的な職務について、その意味を理解させ、職務の遂行に向けてモチベーションを上げていくことである。

教員は、校内組織を構成する一員として果たすべき役割を認識し、組織のメンバーと協働して目的を果たすために、よりよい教育活動を提供していこうと主体的に考え、行動することが求められている。

教員の多忙化の原因として、処理する業務の量や内容の問題もあるが、「やらされ感」に代表されるように、受け身で行っていることからくる負担感も大きいと考える。そこで、指示された内容を「あれも、これもせないかん」とやらされるスタンスでなく、学校経営する組織の一員として、自ら解決策を考え、実行していく、つまり職務の意味を理解し、自分の果たすべき役割ととらえていくことで、職務に対してやりがいを持たせたいと考えた。

また、教員が意識を高めるためには、取組に見通しと目に見える成果を示すことが大切だと考えた。教育はなかなか目に見えるような成果が表れないものであるが、「取り組んだことは効果があった」と感じられるようにすることで、意欲を高めることができると考える。

「教育効果を高める」とは、教員が工夫し、努力した取組が、子ども達の成長につながっていくことを意味する。特に、本校の課題である学力が少しでも向上することを目指している。

「学校経営」とは、校長が策定する学校経営方針にのっとり、「目指す学校」を具現化するために、各学校の経営資源（教職員、地域人材、予算、設備等）を活用し、最も有効な手段により学校運営を行い、教育の質の維持・向上を目指すことである。

学校経営においては、トップリーダーである校長の役割行動が大変重要であり、本研究では、学校経営における校長の経営行動の在り方を明らかにするものである。

(2) 副主題について

本校では、これまで学校の教育目標や重点目標は総花的なものになりがちで、ともすれば単なる「お題目」となり、日常、意識されることが少ないという課題があった。そこで、重点目標を具体的な子どもの姿にイメージできるようにし、日常の教育活動で常に意識できるようにしていくことが大事であると考えた。そこで、重点目標を意識できるようにし、日常の教育活動全体に反映できるようにする校長の経営行動を明らかにしたいと考えた。

3 研究の目標

重点目標達成に向けた教員の職務遂行の意欲を喚起し、教育効果を高める校長の経営行動の在り方を究明する。

4 研究の仮説

校長が学校の状況を把握し、適切な目標を設定するとともに、学年組織を活性化する経営行動を行えば、教員の意欲が高まり、教育効果を高めることにつながるであろう。

5 研究の構想

(1) 研究の方向について

本研究では、①学校経営ビジョン（重点目標）の共有 ②学校組織の活性化について、校長の経営行動としてその試みの効果を検証していく。

①学校経営ビジョン（重点目標）の共有においては、「学校の重点目標の設定と共有化」として、重点目標の作成と、教員とともにイメージする具体的な子どもの姿を共有する方策について、②学校組織の活性化については、「教員の主体性を高める取組」「確かな評価による取組の推進」「達成感を得る成果の共有」として、学年組織を中心とした取組及び評価、主題研修における取組を通して、教員の意欲の向上と教育効果について検証していくようにする。

(2) 計画

重点目標達成に向けた校長の経営行動の計画は次のとおりである。【表1】
それぞれの学期をまとまりとする中で、1学期と2学期には途中の「評価、改善、計画」を入れることで、教員の取組意識の継続、向上を図るようとする。

また、主題研修と連動した取組にしていくことにより、相乗的に教育効果が期待できると考えた。

【表1】 重点目標達成に向けた校長の経営行動年間計画

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点目標達成のPDCA	P	D	CAP	D	CAP	D	CAP	D	CAP	D	CAP
重点目標達成への取組計画①	重点目標達成への取組計画①	取組①	評価、改善① 計画②	取組②	評価、改善② 計画③	取組③	評価、改善③ 計画④	取組④	評価、改善④ 計画⑤	取組⑤	評価⑤ 引継ぎ資料作成
校長の経営行動	教職員への学校経営方針、重点目標の説明	関係団体等への理解、啓発	実施状況確認 評価の場の設定、説明、指導助言		実施状況確認 評価の場の設定、説明、指導助言				実施状況確認	本年度のまとめ 次年度方針提案	
	重点目標の設定と共有化	確かな評価による取組の推進	達成感を得る成果の共有		確かな評価による取組の推進	達成感を得る成果の共有		確かな評価による取組の推進			
	教員の主体性を高める取組										
主題研修	研究の全体構想立案	研究主題の作成	目指す授業像の共通理解	指導案作成	近接授業研 全校授業研				研究のまとめ	次年度の計画作成	
まわり 教員の意欲の高まり	実態把握・模索の段階 【イメージの共有化】		試行、改善の段階 【教員の主体性の高まり】		取組の充実と評価、改善の段階 【取組成果の共有と達成感、意欲の向上】					成果と課題把握の段階 【達成感】	

6 研究の実際

(1)

学校の重点目標の設定と共有化

① 重点目標の設定

新任校長としての赴任なので、基本的には前任の校長の経営方針を引き継ぐ形で経営要綱を作成した。引継ぎの中で、児童の課題、地域・保護者の課題、教職員の課題が数多く、しかも長年解決を見られない等、根深いことも感じた。そこで今年度は、全般にわたっていっぺんに解決を図るのではなく、取組やすかつ、効果が大きい点にポイントを絞って、取組を進めるという方針で行うようにした。

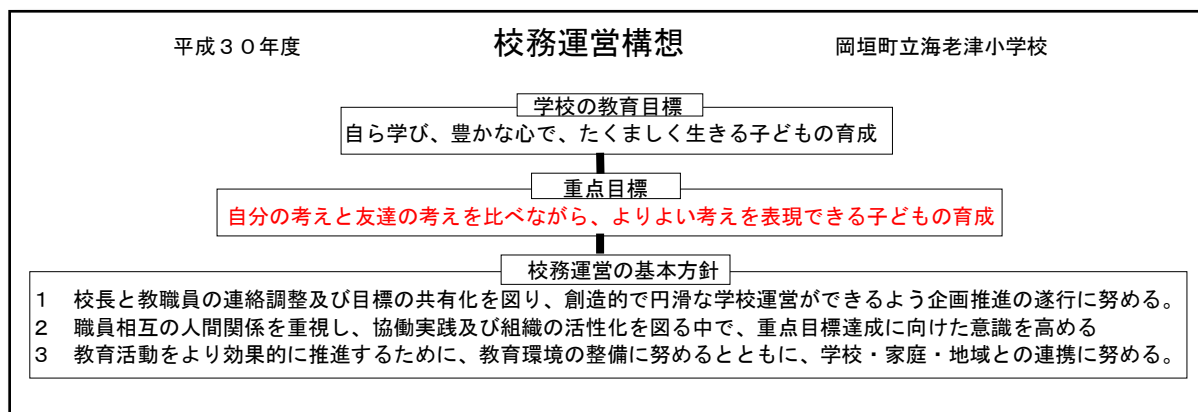
これまでの重点目標の表現が知・徳・体全般にわたったものであり、児童も教職員も日常的に意識することが難しいと思われたので、昨年度の学校経営要綱の中から、学力において記載されていた文言をもとにして、本年度の重点目標を「**自分の考えと友達の考えを比べながら、よりよい考えを表現できる子どもの育成**」と設定した。これは、児童の課題のうちでも最も大きなものであり、教職員はもとより、地域・保護者も児童の課題として理解されていたものである。平成30年度の学校の教育目標、重点目標等は、【表2】の通りである。

【表2】 平成30年度 海老津小学校学校経営要綱（一部）

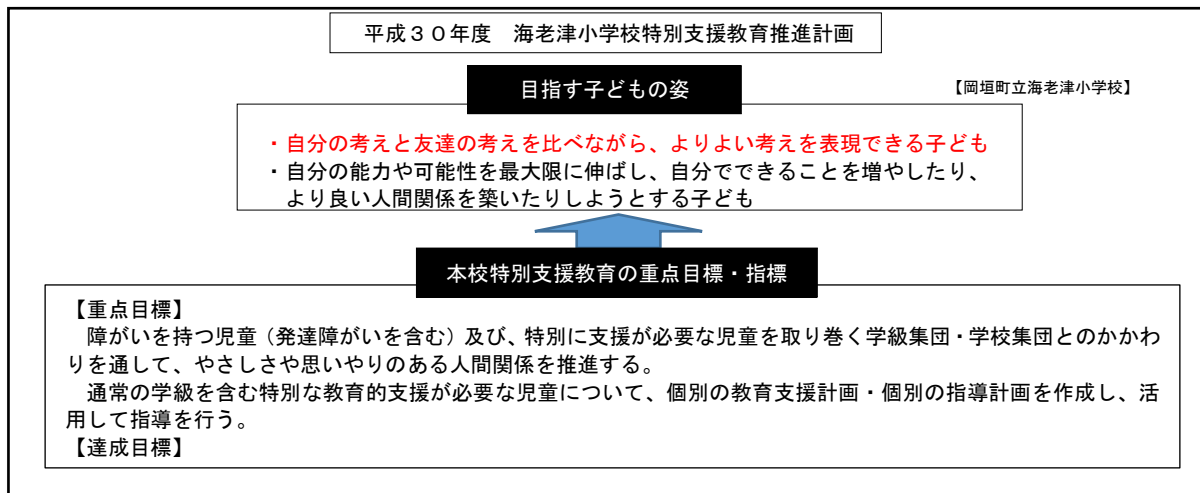
学校の教育目標	自ら学び、豊かな心で、たくましく生きる子どもの育成
本年度の重点目標	自分の考えと友達の考えを比べながら、よりよい考えを表現できる子どもの育成
経営の重点	<ol style="list-style-type: none"> 1 学年組織を中心に、児童の学ぶ意欲を高め、思考力・判断力・表現力などの育成を軸とした授業づくりを行う 2 学校運営協議会の組織と連携させた校務分掌を組織し、地域と連携した効果のある教育活動を推進する 3 町小中連携プロジェクトに基づき、小中連携・小小連携・保幼小連携の推進を図る

② 重点目標達成に向けた校務運営、教務運営、各校務分掌計画の作成

校長の学校経営要綱に従って、校務運営構想【資料2】、教務運営構想等も作成されるが、重点目標達成を軸にして校務運営構想、教務運営構想を作成させた。また、各校務分掌計画案【資料3】においても、重点目標達成の視点を入れることとし、この重点目標が本年度の教育活動全般に展開するようにさせた。



【資料2】 平成30年度海老津小学校 校務運営構想（一部抜粋）



【資料3】 平成30年度海老津小学校 特別支援教育全体構想（一部抜粋）

③ 児童への説明

重点目標を児童にも意識できるように、始業式での校長の話の中で、「今年度頑張ること」として、重点目標に直接結びつく、「自分の考えをしっかりと話す」「先生や友達の考えをしっかりと聴く」「比べながらよく考える」ことを視覚的にわかりやすく提示し、意識づけさせた。

また、いろいろな活動場面でも、この内容について触れるようにし、児童も今年度が頑張ることとしてすぐに言えるように意識化させていった。

④ 地域・保護者への理解啓発

年度当初、学校運営協議会を始め、校区育成会議、校区コミュニティー、PTA総会等において、重点目標について説明を行った。「具体的でわかりやすい」「子ども達に関わる際に意識していきたい」等、理解をしていただいている。実際にそれぞれの団体主催の活動の際には、子どもに常に手を差し伸べるのではなく、子どもに任せてみる、見守るというスタンスで活動してもらうようお願いした。

(2) **教員の主体性を高める取組**

① 教職員の主体的な取組を促す校長提案

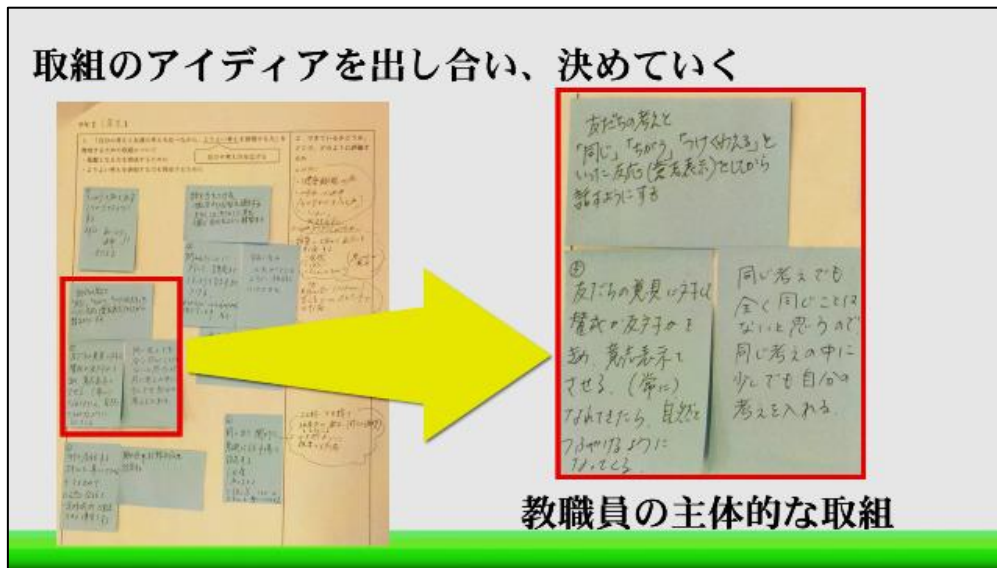
教職員が重点目標達成に向けて意識を高めることは、学校経営において最も重要な点だと考えた。そこで、なぜこの重点目標なのか、目指す児童の姿はどんな姿なのか、そのための取組はどうすればよいかについて、年度当初、教職員にプレゼンテーションを行い、学年で目指す児童の姿、取組を考えさせるようにした。【表3】

この取組により、教職員自らがアイデアを出し合い【資料4】、問題解決の取組をつくるという、主体的な学校経営参画の意識向上につながっていったと考える。さらに取組がやりっぱなしにならないように、成果を見取る手立てについても考えさせ、評価を意識した取組

になるようにさせた。【表 4】この取組が各学年の情報交換を活発にし、学年の目標や取組、評価の視点を学年集団で共有したことから、共通実践が見られ始めた。

【表 3】本年度の重点目標についての校長提案の流れ

校長提案項目	プレゼン画面（一部）	説明内容
1 重点目標の設定の理由	<p>本年度の重点目標</p> <p>自分の考えと友達のことを比べながら、よりよい考えを表現できる子どもの育成</p> <p>見方や考え方を広げる・深める</p> 	<p>新学習指導要領に示されているこれから求められる資質能力から、重点目標の意義について校長が説明。</p>
2 重点目標における学年の児童の姿	<p>【本年度の重点目標】</p> <p>自分の考えと友達のことを比べながら、よりよい考えを表現する子どもとは？</p> <p>具体的な子どもの姿（1・2年）</p> <p>友達の考えを聞いて、賛成か反対かをはっきり決めて、つぶやいたり反応したりできる</p> <p>発言がうまくできない子が言ったとき、「～さんの言いたいことは～ですね」とフォローできる</p> <p>国語の作文の授業で、友達の作文を読んでよいところをコメントに書き、互いに読みあうことができる</p>	<p>各学年で重点目標における児童の姿を具体的にイメージし、付箋に書き出して話し合う。</p>
3 取組内容の検討	<p>【本年度の重点目標】</p> <p>自分の考えと友達のことを比べながら、よりよい考えを表現する子どもとは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よりよい考えを表現する」ことができるようにするために ・基盤となる力を育むために <p>1 どんな取り組みをしたらよいでしょう。</p> <p>☆（参考）全国学テの児童質問紙の項目から</p>	<p>各学年で目指す姿にしていくための取組内容を検討、作成する。</p>
4 評価項目の検討	<p>2 できているかどうか、どのように見取るか（評価）を考えてみましょう。</p> <p>取組の成果を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの場面で ・どのように 評価するか <p>取組ごとにつくってみましょう</p>	<p>取組に対する評価項目を各学年で検討、作成する。</p>
5 全体での交流、指導助言	<p>目標の共有</p> <p>手立ての具体化・見取る方法の設定</p> <p>実施</p> <p>どうだったか？ 次どうするか？</p> <p>教育活動のPDCAサイクル</p>	<p>各学年で話し合ったことを交流し、実施に向けての意欲化を図る。</p>



【資料 4】 学年協議で出された取組内容（一部）

【表 4】 重点目標達成に向けた 1 学期当初の各学年の取組

学年等	取組内容	評価方法
ふたば 学級	<p>○個に応じて自分の思いや考えが表現できるように取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを友達の前で話す。 ・友達の話最後まで聞く。 ・自分の感じたことや経験したことを絵や文で表す。 ↓そのため ・学習規律を身に着けさせる。 ・落ち着いた行動がとれるように読書活動や、ソーシャルスキルの活用をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直のスピーチや学習中の発表を観察する。 ・絵や振り返りノートで評価する。 ・学習ノートや教科書の準備ができているか？ ・時間を意識しての行動がとれているか？ ・実践後の観察。
なのみ 学級	<p>○朝の活動の「お話タイム」で、楽しかったことや楽しみにしていること等について話させ、質問したり、答えたりし合う活動を行う。 (「○○について話します。」「質問はありませんか?」「△△ですか?」「はい、△△です。」「わかりました。」等、言葉をつないでいく。)</p> <p>○行事などの前に、楽しみにしていることや不安なこと等を話す場を設けたり、行事の後に絵や文で表したり、互いに交流し合ったりする活動を仕組んだりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の内容や態度等から見取るようにする。 ・発表の内容や、絵や文で表したもの等から見取るようにする。

1年	<p>【1学期前半】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれたら「はいっ」と必ず返事をする。 ・問われたことに対して、語尾まではっきりと話す。「わかりません」「後で言います」等も。 ・一番遠い人の方を向いて、しっかり聞こえる声で話す。 <p>【1学期後半～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を聞いて「似ています」「少し違います」や共感するつぶやき「あー」等の反応をすることを指導する。 ・国語の「読むこと」の学習で動作化を取り入れ、考えの違いを言葉と動作とで表現する活動を取り入れる。 ・算数の学習では、ペアで考えを表現し合う活動を取り入れ、どこが同じ考え、どこが違う考えかを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会、帰りの会をはじめ、学校生活全体で見取る。 ・健康観察の返答の仕方、日直の号令等で見取る。 ・授業の中での反応の様子を観察して見取る。 ・動作化、発言から見取る。 ・ペア交流の様子から見取る。 						
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の説明文において「自分の考えや感想を書く」「交流する」「自分の考えを深めまとめる」活動を取り入れる。 ・算数で数図ブロックの数を求める学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方、算数学習の進め方を知る。 ・自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方の良さに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述から見取るようにする。 <table border="1" data-bbox="911 887 1358 1032"> <tr> <td data-bbox="911 887 1058 976">はじめの自分の考え</td> <td data-bbox="1058 887 1204 976">友達の考えを聞いて気付いたこと</td> <td data-bbox="1204 887 1358 976">学習を通して分かったこと、気付いたこと</td> </tr> <tr> <td data-bbox="911 976 1058 1032"></td> <td data-bbox="1058 976 1204 1032"></td> <td data-bbox="1204 976 1358 1032"></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・本時学習で「自分の学びは何だったのか」を書かせる。毎時間ノートチェックを行う。 	はじめの自分の考え	友達の考えを聞いて気付いたこと	学習を通して分かったこと、気付いたこと			
はじめの自分の考え	友達の考えを聞いて気付いたこと	学習を通して分かったこと、気付いたこと						
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業では「自分の考えを書く」「考えを出し合う」学習をし、毎時間「振り返り」を書かせる。 ・学習中の発言の仕方「○○さんに付け加えます」「○○さんと同じで～」などを教える。(教室にも掲示する) ・発表の仕方 ・つなげる発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記述から見取るようにする。(本時の学習の振り返りの中に、友達の考えを聞いて、分かったことや気付いたことが書いてあるか?) ・発言の仕方について、毎時間評価する。 						

4年	<p>1 授業</p> <p>(1) 自分の考えを書く場を設定 物語教材では主題を考えノートに書いたり、説明文教材では段落の要約を考え、ノートに書いたりする。</p> <p>(2) 考えを表現する場を設定する。 少人数交流や全体交流を仕組む。</p> <p>2 朝の活動、ドリルタイム</p> <p>(1) 声を出す活動 発表する抵抗を小さくするために声を出す活動を仕組む</p> <p>(2) 簡単な討論 自分の考えと友達の考えを比べる力をつけるために、自分の考えを言う場、友達の考えを聞く場を設定する。</p> <p>(3) 視写 自分の考えを素早く書く力をつけるため、速く正確に書く練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記述から見取る 教科や単元に応じて、授業の導入と終末で記入したり、単元の導入と終末で記入したりする。 ・自分の考えを言う場を設定 ノートに書いた考えを発表させる。 列指名で行い全員に言わせる。 ・暗唱を取り入れる 月に一つの詩を暗唱できるようにする。 ・週に1回、討論するテーマを決め、2つのグループに分かれ意見を言う。 ・10分間で学級平均240文字の視写を目標とする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の学習で問題の解き方を考える場面では、自分の考えを言葉や式、線分図、関係図などを使って説明する活動を取り入れる。 ・国語の学習では条件に合わせて「書く」活動を取り入れる。 (文字数、時間、キーワード等) ・ペアや小グループで、自分の考えを話したり、書いたりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものノートや発表から見取るようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の物語文において、主人公の心情を発表し、全体で交流し合った後に、自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・社会の学習で提示したためあてに沿ってまとめを書く活動を取り入れる。 ・算数の学習で、自分の考えをもつ(書く)→ペア・全体で交流する→自分の考えを書く(まとめる)活動を取り入れる。 ・授業の中で「自分の考えをもつ」「友達の発言につなぐ」「他の考えを発表する」意識を育てる。 ・体育の学習でより良い方法や作戦を考え、グループで交流し、振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間ノートの記述から見取る。 ・キーワードを入れて、まとめを書くことができているか、ノートの記述から見取る。 ・児童の発言やノートから見取る。 ・児童の発言の中から価値づけする。 ・体育のノートの記述、行動から見取る。

② 重点目標達成に相乗効果を果たす主題研修

ア) 研究主題の設定

日常の教育実践を活性化させるのが学校の主題研修である。平成 29 年度まで福岡県のキャリア教育重点課題指定を受けていたことから道徳科が研究教科であったが、平成 30 年度より児童の課題が大きい算数科を研究教科とした。各校務分掌計画にも重点目標が反映するようにしているのと同様、主題研修においても、重点目標と直接結び付くように研究主題を設定するようにした。そこで、研究主任とよく話し合い、研究主題を「**根拠をもとに考えを表現できる子どもの育成**」と掲げ、算数科における数学的表現にもとづいた思考力・判断力・表現力等の育成を目指して研究を進めるようにした。

イ) 授業研究を通じた実践

研究主題が「根拠をもとに考えを表現できる子どもの育成」とあるので、授業構成も「自分の考えを作る、記述する」「考えを発表、交流する」「振り返りで学んだことを記述する」といったところに意識した授業がなされた。指導する教員も「どういう数学的表現を目指すのか」「そのためには、どういう手立てが必要となってくるのか」といったことについて、論議を深めていった。授業実践を深めるにつれ、子ども達も自分の考えを根拠をもとに記述するといったことが次第にできるようになってきている様子が見られた。

(3)

確かな評価による取組の推進

各学年で作成した重点目標達成に向けた取組があいまいに終わらないように、取組内容と同時に評価についても作成するようにした。年度当初は、取組をどう評価するのか、それぞれの学年の先生で自由に考えてもらい、評価の内容や方法を決めるようにさせた。

1 学期は、6 月 7 日に途中評価を行い、その際、その評価で十分取組の様子が見とれたかという視点から、再考、改善するようにした。そして、1 学期末 7 月 23 日に 1 学期の取組の評価を行った。

評価の内容や方法が具体的にできればなるほど、見取りも細かく正確性も高まり、繰り返していく中で、取組への改善の効果性も見られ始めてきた。2 学期末までの取組の評価は【表 5】の通りである。

【表 5】重点目標達成に向けた途中評価及び 1 学期末評価による改善策の作成

学年等	取組内容	評価方法	力がついているかどうか(評価)
ふたば学級	【1 学期途中取組の改善】 ・家庭学習を毎日出し、習慣づける。 ・頑張りカードを使って振り返りをする。 ・短い時間から少しずつできるよ うにさせていく必要がある。 ・興味のある学習教材を考えてい	【1 学期途中評価の改善】 ・宿題を毎日確認する。 ・学習ノートや教科書の準備が出来 ているか？ ・時間を意識しての行動がとれてい るか？ ・実践後の観察	【1 学期末評価】 ○友達の様子を見て、自分を振り返り 考えて表現できるようになっ た子どももいる。 ▲長い時間話を聴くことができな い子どもが多い。聞ける時間を少 しずつ増やしていきたい。 ▲自分の思ったことを素直に表現

	く必要がある。		できる子どもが多いが、友達のことを考えることはできていない。
	【1学期末取組の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・頑張りカードで子どもの意欲を高める取り組みを続けていく。 ・学習後の楽しみを作り、子ども達の学習意欲を高める。 ・興奮状態のときはしっかりとクールダウンさせ、学習活動ができるように心がけていく。 	【1学期末評価の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の点検内容を細かく決める。 ・頑張りカードに時間を守れた時や約束を守れた時の内容を入れ、評価する。 	【2学期途中評価】 <ul style="list-style-type: none"> ○弁当作りなどの調理実習をすることを通して、役割分担を意識し協力する力、先を見通す力が付きつつある。 ▲文章題に対して抵抗があり、文章を読まないで解こうとする。 ▲自分の気持ちだけで行動し、友達の気持ちをまだまだ考えることができない。
	【2学期途中取組の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・小集団でできる活動を計画的に仕組み、協力する力をさらにつけていく。 ・継続して音読や短い文章の読み取りを行い、文章を読み取る力をつけていく。 ・ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた学習に取り組み、相手の気持ちを考える力をつけていく。 	【2学期途中評価の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・うまく我慢できたときのことを書くようにさせ、その積み上げを確認させるようにする。 ・全部ではないが、学習したことを綴るようにして、力がついていることを目に見えるようにする。 	【2学期末評価】 <ul style="list-style-type: none"> ○小集団活動において、すべてを教師に聞くのではなく、自分たちで計画を見て考え、協力して活動できるようになってきた。 ▲文章を読むことをめんどくさがり、意欲がなかなか高まらない。
	【1学期途中取組の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会で、楽しかったことや楽しみにしていることなどについて話をさせ、質問したり、答えたりし合う活動をする。 ・行事等の前に楽しみにしていることや不安なこと等を話す場を設ける。 	【1学期途中評価の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・話の内容や態度を見取る。 ・発表の内容や絵や文で表したもののなどから見取るようにする。 	【1月学期末評価】 <ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見だけでなく、相手の意見を受け入れようとする姿が少しずつ表れてきた。 ▲行事などの後、絵や文で表す活動はあまりできなかった。 ○「こんなところが楽しかった」「〇〇さんのこんなところがよかった」などの交流はできた。
な の み 学 級	【1学期末取組の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇さんのようになりたい、できるようにになりたい」の目標を持たせる ・自分の話を上手に伝えることや質問をすることで、より詳しく話の内容がわかるようになりたいという意欲を高めていくようにする。 	【1学期末評価の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士のやり取り(会話や遊び)から見取るようにする。 	【2学期途中評価】 <ul style="list-style-type: none"> ○話のやり取りしている中で友達の話の聞き、「自分も話してみよう」と意欲を高めることができた。 ▲「上手に伝えたい」や「質問をしたい」といった意欲を持たせることが不十分だった。
	【2学期途中取組の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・「素直な子ども」を育成するために、挨拶や「ありがとうございます」「ごめんなさい」が言えるように日ごろから声かけを行う。言えた時には「すごいね」「よく言えたね」など評価していく。 ・お話タイムでの会話のやり取りがより詳しい内容になるために、理由を話すように習慣付けをさせたり、モデルを教師が示したりする。 	【2学期途中評価の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・取組から見取り、評価する。目標；自分から進んで話す8割以上 	【2学期末評価】 <ul style="list-style-type: none"> ○「進んであいさつをする」「ありがとうを言う」はほぼ全員出来ている。 ▲「ごめんね」はすぐには言えず、「何か言うことない？」と聞くと「～しているごめんなさい」と言える。
1 年	【1学期途中取組の改善等】 <ul style="list-style-type: none"> ・発言の指名 名前を呼んだときは必ず返事をするまで呼び続ける(あきらめずにする) ・問われた時の答え方を教えていく(全体のものとして指導していく) ・声が小さい子には「聞こえません」と言ってあげる(それが思いやり、その子のためと理解させる) ・理由を問う発問、誤答を活用し、 	【1学期途中評価の改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・発言 	【1学期末評価】 <ul style="list-style-type: none"> ○返事はほぼできるようになった。 ○算数で考えを説明できる子は2割程度できるようになった。 ○ペアで考えを伝え合う活動を取り入れたことに少しずつ慣れてきた。 ▲声の小さい子に対する手立て。 ▲発言が途中で止まった時に黙ってしまう子が3割ほどいるため、言い方を指導していく必要がある。

	なぜそう考えがたかを言わせるようにしていく		る。
	【1学期末取組の改善】 ・考えを説明する場を多く設定する。 ・説明の仕方を具体的に教える。 ・言えるまでさせる。 ・日々繰り返す。 ・ペア(2、3人)で話す場を設定し、ペア交流に慣れさせる。	【1学期末評価の改善】 ・算数の活用問題では、他教科との関連を図り体験を通して学ばせ(まとめて、輪投げ等)その中で評価していく。 ・毎日評価の対象を決めて、見取っていく(1号車ずつ、班ごと等)	【標準学力検査において必要になる力】 国語 ・自分の考えとその理由を書く力・質問する力(関連した)・資料を活用する力をつける。 算数 ・数の並び(○と○で、○は○と○)・演算を決定する力・問題を作る力をつける。
	【2学期途中取組の改善等】 ・過去問(CRT等)や様々な問題を繰り返しさせる。 ・解き方の指導を行う。 ・苦手なタイプの問いを授業の中で取り入れる。 ・日常の話の中で適切な質問をする訓練をする。 ・体験活動を通して理解を深める。 ・たくさん数字が出てくる中から、必要な数字を選んで立式させることを経験させる。 ・問題とお話づくりを同時にさせ、違いを理解させる。	【2学期末評価方法】 ・標準学力検査 目標正答率	【2学期末評価】 ・標準学力検査 正答率 ○考え方や解き方を説明する活動を取り入れたことで、説明する力が付いてきた。 ▲問われていることが理解できていない子がいる。
	【1学期途中取組の改善】 ・結論を書き、次に理由を書かせる。 ・立場を明確にし、理由を述べさせる。	【1学期途中評価の改善】 ・ノートを回収し、「できた」「できていない」で評価する。 (たのしかった おもしろかったは×)	【1学期末評価】 ○国語、算数の学習後は、振り返りの時間を取り、書く活動が抵抗なくできるようになってきている。 ○自分の考えを①結論②理由の順で話すことができる。 ▲友達の考えをよく聞くは課題。
2年	【1学期末取組の改善】 ・文章題を視写させる。(問題、考え方、答え) ・「この意見どう思う？」と立ち止まらせる場を設定する。 ・話し合いの基本を身に着けるためにも、日常的に声を出す練習をする。 ・発表した後に、理由づけする型を身につけさせて、話し合いを活発にする。	【1学期末評価の改善】 ・めあてやキーワードを踏まえて、感想がまとめられている→A (たのしかった、おもしろかった等は×)	【標準学力検査において必要になる力】 ・最後まで問題を解く力(忍耐力) ・文章題に取り組む力
	【2学期途中取組の改善等】 ・時間で活動を区切る。 ・書く活動の時間を増やす。 ・発言をつないでいく訓練をする。	【2学期末評価方法】 ・標準学力検査 目標標準スコア	【2学期末評価】 ・標準学力検査 標準スコア ○「活用トレーニング」の問題集を通じた練習の成果が見られた。 ▲基礎、基本の定着が十分でない。

3 年	<p>【1学期途中取組の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の仕方「○○さんに付け加えます」「○○産と同じで～」の掲示物を活用して指導する ・振り返りをできるだけ毎時間書かせる。各時間が持てない場合は2～3人発表させる。 	<p>【1学期途中評価の改善等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記述から見取る「～だから」等の記述 ・友達の発言についての記述 ・発言の仕方についての評価は続ける 	<p>【1学期末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○振り返りはよくできるようになった。 ▲子ども同士でのやり取りはまだできていない。ペアでも聞くだけに終わっている。 ▲つなげる発言「～さんに付け加えます」は少ない。 ▲環境整備(ホワイトボード、赤青鉛筆)(考えを比べるための掲示物) ▲ノート指導
	<p>【1学期末取組の改善】</p> <p>続けること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・つなげる発言の型を教える <p>改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードなどに自分の考えを書いて発表する(友達の考えと比べる) ・ペア学習を深めるため、「発問の工夫」良い見本を見せる。 	<p>【1学期末評価の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートの良い手本を子どもに見せる。 <p>(考えを比べている振り返り)</p> <p>(考えのまとめ方)</p>	<p>【標準学力検査において必要になる力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを説明する力 ・原稿用紙の使い方、段落分の仕方 ・長い文章に慣れる
	<p>【2学期途中取組の改善等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章題で答える問題の答え方を練習させる。(例を参考に) ・過去問で解いたものを解説する時間をとる。 ・宿題で長文読解問題を出す。 	<p>【2学期末評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準学力検査 目標標準スコア 	<p>【2学期末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準学力検査 標準スコア ○問題練習と振り返りの時間を取ったことで、成果が見られた。 ○学習規律を徹底したことで、書く力がついた。
4 年	<p>【1学期途中取組の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続する。まだ書くことができていない児童がいる。 ・表現しやすい場とそうでない場がある。そのため、単元の中でどの場面で考えを表現させるのかが明確にして授業をする。 ・交流のさせ方は、授業の展開や目標、児童の実態などを考えさせながら工夫していく。 ・声だし； 授業で意識する ・討論； 朝→授業 ・視写；継続して目標の時数に達するようにする(ドリルタイム) ・基本的な計算 ・四則計算に取り組む 	<p>【1学期途中評価の改善】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ノートの記述から見取る 2 児童が表現する場を設定 3 列指名、2人組、全体交流などで全員に表現させる場を仕組む 4 視写は字数で評価する。 5 新しくドリルタイムに四則計算に取り組む。 6 同じ問題を一定期間続け、結果を記録する。 	<p>【1学期末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳、国語で友達の考えの中で「いいな」と思うものをノートに書かせるようにした→少し意識が高まった。 ▲グループでの話し合いでは、進んで話し合いをしようとする姿が多くなった。反面発言をしない子もいる。 ○書くことに慣れてきた。 ○四則計算のスピード、視写スピードの向上 ○～さんと似ていて、～さんに付け加えて等の発表の仕方が身についてきた。
	<p>【1学期末取組の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの取組は継続 ・がんばりタイムで活用問題を解く(1日1問解いて→解説) ・グループ交流の仕方 	<p>【1学期末評価の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの評価の継続 	<p>【標準学力検査において必要になる力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いに対する答え方(特に記述式の問題について) ・問題文を速く読む力

	<p>【2学期途中取組の改善等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の問題を解きながら答え方を学ばせる。(繰り返し学習) ・算数科においては今までの学習の全体的な復習を行う。 	<p>【2学期末評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準学力検査 目標標準スコア 	<p>【2学期末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準学力検査 標準スコア ○いろいろな教科を通して、自分の考えを書かせたり、モデル文を視写したりした成果が出た。 ▲算数の基礎が課題である。苦手になっている児童への支援の必要性がある。
5 年	<p>【1学期途中取組の改善】</p> <p>算数</p> <p>① 文章題で線分図や関係図を書くことができ、それを使って問題を解いたり、説明したりすることができるように指導する。</p> <p>国語</p> <p>条件に合わせて「書く」活動において子どもの実態や学習内容に応じて条件設定を考え、レベルアップさせていく。</p> <p>例) 文字数、時間、キーワード、事実と意見を分ける、○文以上で書く、主語と述語を意識する、つなぎ言葉を入れる、理由を書く、根拠を明確にして書く</p> <p>※ 理由を述べるときは「わけは、～だからです。」という。</p> <p>※ 授業の中で交流場面を必ず入れていく。</p>	<p>【1学期途中評価の改善】</p> <p>ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、理由をつけて書くことができる ・自分の考えを言葉や式、図を使って書くことができる。 <p>発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもとに理由を述べることができる。 「わけは～だからです。」 ・これまでの学習や友達の発言とつなげて理由を述べることができる。 「○○さんと似ていて～です。」 「○○さんに付け加えます。」 	<p>【1学期末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲考えを持つことはできているが、表現方法が決まっている。深まりがない。 ▲多面的にものを考える子どもが少ない。 ▲積極的に発表したり、声を出したりする子が、全員ではない。 ▲教師の発問の仕方が課題。
	<p>【1学期末取組の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方→「似ています」「違う考えがあります」等 ・条件に合わせて書く <ul style="list-style-type: none"> → ○文で書く キーワードを使う 事実と意見を分けて書く 	<p>【1学期末評価の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の振り返りを聞いて、「あのよな事を言えばいいのか」がわかるようにする。 	<p>【標準学力検査において必要になる力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を確実に読み取る力 <ul style="list-style-type: none"> → キーワードや必要な数字に線を引く ・線分図や関係図を使って考える力 ・根拠をもとに自分の考えを説明する力
	<p>【2学期途中取組の改善等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元全体を見通して、単元のどこでどんな力をつけるべきか検討し「対話的・主体的な学び」を位置づけていく。 ・小数÷小数の文章題の立式の手立てとして、異種の2量の関係を理解するための図(数直線)を活用できるようにする。 	<p>【2学期末評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準学力検査 目標標準スコア 	<p>【2学期末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準学力検査 標準スコア ○根拠をもとに自分の考えを説明する児童は限られるが、主体的に聞くことや考えることを意識して学習できるようになってきている。 ▲目的にあった話し合い活動、対話活動を工夫していくことが大切。
6 年	<p>【1学期途中取組の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自でまとめを書くことができるように、分かりやすいめあての提示と、キーワードを明示する。 ・体育の学習カードを継続して書く。(見る視点) 	<p>【1学期途中評価の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートや学習カードの基準などにも、評価の基準をそろえる。 	<p>【1学期末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キーワードを提示すれば、学習のまとめを書けるようになってきた。 ▲体育は活動時間を多く取りたいので、ノートを書く時間が取れにくい。

	<p>【1学期末取組の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育のカード(めあて、振り返り)は朝、昼の頑張りタイムを活用し、時間を確保する。 ・ノートのとまとめ方を工夫させる。(考え方、大切なこと) ・前時のまとめや振り返りを学習のはじめに発表し合い、全体に広げる。 ・2学期は授業の中で、自分からキーワードを見つける。 	<p>【1学期末評価の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級ごとの評価基準をよく話し合っ てそろえる。 ・評価の持ち寄りをする。 	<p>【標準学力検査において必要になる力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持たせるために、どれだけの問題を解けばよいかを認識させる。 ・毎日少しずつ問題を解かせ、定着を図る。
	<p>【2学期途中取組の改善等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題を数多くこなす。 	<p>【2学期末評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準学力検査 目標標準スコア 	<p>【2学期末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準学力検査 標準スコア ○ノートを定期的に評価することで、要点をまとめる力、書く力がついてきた。 ○ペアー全体という発表の形が定着し、自信をもって発表することができてきた。 ▲練習問題はできうる限りさせてきたが、説明する力はまだ十分についていない。

(4)

達成感を得る成果の共有

取組の効果を見取る評価が具体性を帯びてくると、子どもの伸びの成果も具体的に実感できる。特に、主題研修で「考えの根拠を話す」「書く」といったことに教員の意識が高まり、「自分の考えをしっかりと持たせることがポイント」ということや、根拠の示し方等をきちんと指導するといったことの重要性が再認識され、始めはなかなか自分の考えを書くことができなかつた子どもも、多くの子どもが、正しく書けるようになり、進んで自分の考えを発言し、友達の発言と自分の考えを比べながら、深めている姿も見られるようになった。

1学期、2学期の取組の評価の話し合いでは、具体的な評価資料を基に取組について振り返りをしたので、活発な意見の交流が見られた。

特に交流後、意見や感想を記述してもらったところ、取組に成果を感じている記述も多く見られた。

経験にもとづいた学年の先生のいろいろな取組方法(特に学級経営においての具体的方法)について聞くことができ、勉強になりました。また、学級の子どものことについて相談しやすくなりました。

評価の基準を具体的に知ることができたのがよかったです。

【資料5】1学期取組評価後の教員の感想(若年教員)

はじめて重点目標を意識し授業は、学校行事に取り組んだりしました。学校全体でみなさんの意識をそえる意味でも大事なことだと思います。

学年での話し合いも必要です！学校行事などもっと精選して、時間を生み出すことかっできるようお願いいたします。

【資料 6】1 学期取組評価後の教員の感想（ベテラン教員）

7 全体考察

（1）学校の重点目標の設定と共有化

重点目標を教育課題である思考力・判断力・表現力等の資質・能力向上に焦点化し、子どもの姿を具体的に教員に考えさせ、学年でまとめていくことは、重点目標を日常の教育活動の中で意識させることにつながったと考える。また、1 学期途中、1 学期末、2 学期途中、2 学期末と評価を繰り返すことで、重点目標達成の意識を継続し、教育活動に反映させていくことができた。その成果として、平成 30 年 12 月に全校児童で行った標準学力検査において、算数科の活用に関して全学年向上が見られた。また、平成 31 年度 4 月に行われた全国学力学習状況調査結果においても、昨年度と比較し、大きく向上が見られた。

子どもに対しても、学校行事等ことあるごとに校長が重点目標に関して話をする中で、ほとんどの子どもが今年度ががんばることとして答えることができていた。また学校関係者評価としての保護者アンケートからは、「お子さんは家で自分の気持ちを話すことができますか？」についての回答において、「よく」「だいたいよく」が 73.4%あり、保護者の意識の高まりもうかがうことができた。

しかし、地域や校区育成会議等からは、「子ども達の変容はわかりにくい」といった声も聞かれた。

（2）教員の主体性を高める取組

重点目標の意義を伝え、理解を促し、取組自体を教員自ら創造させていくことで、教員の主体性を促すことにつながったと考える。また、ベテラン教員の豊富な経験が学年集団の牽引力となり、学年集団のまとめり意識向上につながった面も見られた。【資料 7】

項目	質問内容	4件法の平均ポイント		1 2 3 4				
		4月	11月	0	1	2	3	4
重点目標に対する意識	あなたは学校の重点目標を言えますか？	4月	3.3					
		11月	3.5					
	あなたは重点目標を意識して教育活動を行っていますか？	4月	2.8					
		11月	3.4					
	子ども達は今年度どこを特にがんばるかわかっていると思いますか？	4月	3.2					
		11月	3.2					
組織的な行動	学校は組織的に活動していると思いますか？	4月	2.4					
		11月	2.8					
	あなたは同学年で児童や教育活動についてよく話し合っていますか？	4月	2.8					
		11月	3.4					
	あなたは同学年で同じ取組ができていますか？	4月	2.5					
		11月	3.2					

【資料 7】 平成 30 年度海老津小学校教員の意識変容 平成 30 年 4 月と 11 月の比較

(3) 確かな評価による取組の推進

取組と同時に、評価内容、評価方法も検討させ、学期途中に見直しを図らせたことは、評価についての意識も高めることができたと考える。評価を意識することで、取組も具体的になり、取組の徹底につながり、教育効果を高めることにつながったと考える。しかし、評価基準についてはまだ教員間の差が見られる。

(4) 達成感を得る成果の共有

教育の効果は、すぐに表れないし、見取ることも難しいところがある。しかし、全校で行った標準学力検査の結果をもとに検証する研修では、教員がその結果を見ながら、うれしそうにそして、活発に意見交換する姿が見られた。また課題解決に向けての意欲も高まり、「こんな取組をすればさらに力を伸ばせる」「これは効果がある！」といった発言が多く見られ、次に向けての意欲も高めることができていた。

さらに研究主題を「根拠をもとに考えを表現できる子どもの育成」と重点目標と関連を持たせたことで、授業後の見取りもその点を意識することにつながり、子ども達の発言や記述を共通の視点として、活発に意見交換がなされ、新しい取組の提案も次々と出される等、意欲の高まりが見て取れた。

8 成果と課題

(1) 成果

- 校長が重点目標を吟味し、教員とともに取組を創造していく提案は、教員の当事者意識

を高め、子ども達の学力の向上や問題行動の減少につながり、教育効果を高めることにつながった。

- 学年集団を中心に、取組の PDCA を確実に機能させ、評価を意識させることで、学年の教育活動に協働性が見られ、子ども達の力の向上につながった。

(2) 課題

- 重点目標達成に向けた教員の意識や取組の意欲は、平均的に向上が見られるが、教員の個人差も見られ、意識が低い教員に対する校長のアプローチの工夫が求められる。

<参考文献>

- ・「次代を拓くスクールリーダー」福岡県教育センター専門研修資料 R1.7
- ・「校長の仕事術」編集者 元兼正浩 教育開発研究所 H24.2.1 発行
- ・「学校経営 15 の方策」福岡県教育センター H26.3.31 発行
- ・「学校のチーム化を目指すミドルリーダー」福岡県教育センター H28.3. 発行
- ・「学校変革の決め手」 ぎょうせい H28.7.15 発行
- ・「校長の覚悟」 関根正明 学事出版 H26.3 発行